

平成 25 年 10 月 29 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 25 年 10 月 29 日 (火曜日)
午後 1 時 30 分から午後 3 時まで

2 場 所 秋葉中学校 会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 羽賀 友信 委 員 中村 美和
委 員 青柳 由美子 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長	佐藤 伸吉	子育て支援部長	矢沢 康子
教育総務課長	若月 和浩	教育施設課長	中村 仁
学務課長	田村 均	学校教育課長	田中 仁
子ども家庭課長	佐藤 正高	保育課長	栗林 洋子
中央公民館長	武樋 正隆	中央図書館長	金垣 孝二
科学博物館長	山屋 茂人	学校教育課主幹兼管理指導主事	大矢 慎一
学校教育課主幹兼管理指導主事	笠原 徹	学校教育課主幹兼管理指導主事	山之内方史

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	茂田井裕子	教育総務課庶務係長	水内 智憲
教育総務課庶務係	佐藤 可名		

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 43 号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について
3	第 44 号	長岡市児童館管理規則の一部改正について
4	第 45 号	長岡市地域子育て支援センター事業実施要綱の一部改正について

7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会 10 月定例会を開会する。

日程第 1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

日程第 2 議案第 43 号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

(大橋委員長) 日程第 2 議案第 43 号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について を議題とする。

(大橋委員長) 本日午前に実施したヒアリングを踏まえ、今回の表彰候補者について、被表彰者として適しているか否かを決定したい。今回、内申のあった長岡ジュニアバレーボールクラブを被表彰者として決定してよろしいか。

[全員了承]

(大橋委員長) それでは、被表彰者として決定する。

日程第 3 議案第 44 号 長岡市児童館管理規則の一部改正について

(大橋委員長) 日程第 3 議案第 44 号 長岡市児童館管理規則の一部改正について を議題とする。事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 今回の件は桐原児童館の閉館に伴い、児童館の休館日について改正したいものである。現在、桐原児童館だけが月曜日が休館日であるが、桐原児童館閉館に伴ってこの条文を削除したい。これにより、市内の児童館の休館日は日曜日のみとなる。施行は、平成 26 年 1 月 1 日としたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議はないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

日程第 4 議案第 45 号 長岡市地域子育て支援センター事業実施要綱の一部改正について

(大橋委員長) 日程第 4 議案第 45 号 長岡市地域子育て支援センター事業実施要綱の一部改正について を議題とする。事務局の説明を求める。

(栗林保育課長) 長岡市の地域子育て支援センターは、これまで国の補助金である子育て支援交付金事業として行っていたが、平成 25 年度から県の安心こども基金事業へ予算の組み替えをされたことに伴い、所要の改正を行いたいものである。内容としては、これまで地域子育て支援センターはちびっこひろば等のひろば型と保育園に併設してあるセンター型という形態があったが、この度すべての形態が一般型と言う形態に変わる。記述は変わるが、今までの事業と改正後の事業とで内容についての変更はない。これまで長岡市ではひろば型支援センターは「週 3 日」、保育園地域子育て支援センターは「週 5 日」としていたが、今回の改正で国の要領にならば、それぞれ「原則として 3 日」、「原則として 5 日」とした。施行期日は平成 25 年 4 月 1 日としたい。これは、国の要領及び県の要綱の改正を待っていたもので、市の要綱も遡及することとしたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに意義ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告事項に入る。報告事項として最初に、平成 25 年度ポニー事業の実施報告について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 平成 25 年度の事業が一とおり終了したので概要を報告する。まず、「ポニーとキャンプ in 蓼科」だが、これは小中学生を対象とし、3泊4日の比較的長期的な宿泊体験の事業である。今年度の特徴としては高校生ボランティア講座とタイアップし、6人の高校生がボランティアとして参加した。小中学生だけでなく、高校生にとっても良い経験となった。次に「グラウンドポニースクール」だが、これは学校のグラウンドにポニーが出向いて乗馬体験をするものである。今年度をもって、市内 60 校の小学校全てを回る事ができた。学校に出向いた際には近隣の保育園にも呼びかけており、園児や見学に訪れた保護者にも体験してもらい地域への広がりも見せながらの事業となった。また、今年は委託先のハーモニセンターのスタッフの昼食に訪問先の学校の給食をお願いした。スタッフと子どもたちが一緒に昼食を食べながら和やかな時間を持つことができた。その後の子どもたちの感想文から、非常にワクワク、ドキドキな体験を得た事が感じられ、効果のある事業となった。次に、今年度の新規事業として支所地域を巡回するポニーカーニバルを行った。今年度は川口地域と小国地域の2か所で行った。川口地域では池の周りを回る引き馬のコースを設置し、ロケーションも良く、大変喜ばれた。小国地域では地域の福祉団体や小学校、保育園等で実行委員を立ち上げ、総合センターだんだんを拠点に屋内でのイベントやあそびコーナー等、地域を上げてのポニーカーニバルとなり、非常に好評だった。当日、川口地域は雨天にもかかわらず480人が集まり、小国地域では晴天に恵まれたこともあり1,000人の来場者があった。次に、今年度の「ながおかポニーカーニバル」は悠久山公園で開催した。昨年

はハイブ長岡での開催だったが、来場者の中にはハイブ長岡の会場と違って自然の中で体験できてとても良かったとの声も寄せられている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 川口や小国は祭りの要素を取り入れていたようだが、ここに挙がっている人数は祭り目的に参加した人数か、それとも乗馬目的に参加した人数か。

(佐藤子ども家庭課長) 人数の集計は全体なので乗馬目的だけとは言えないが、ほとんどがポニー目当てで乗馬体験をしている。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

(中村委員) ポニースクールかつしかの子どもたちによる模範演技披露は今年初めて行ったのか。

(佐藤子ども家庭課長) ここ数年行っている。

(中村委員) 会場をハイブ長岡から悠久山公園にしたことで来場者は増えたのか。毎年来ているが今年が一番楽しかった等の感想から、場所が良かったのか、それとも何か新しい事業を行ったのか。

(佐藤子ども家庭課長) 集客数としては昨年よりも減っている。これは、昨年、ハイブ長岡を中心に他のイベントを行っていて、その効果が多かったものである。今年が一番楽しかったということは来てみての感想であり、ロケーションが美しいことや、小動物園等もあるので長時間楽しめるというところからではないかと思う。

(中村委員) 来年度の会場は考えているのか。

(佐藤子ども家庭課長) 悠久山も視野に入れ、実行委員会で会場・日時等を決めていきたい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 駐車場から会場が遠いけれど、遠いと言う声がなかった。つまり、本当にポニーと親してみたいという人が来ているということが感じられた。来年度もいい会場を確保するために、ぜひ早めに会場を決定する努力をお願いしたい。

(大橋委員長) 是非、来年度も継続的な活動をして欲しい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。

(大橋委員長) 次に、家庭でワクワクお手伝いポスターコンクールの審査結果について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 家庭でワクワクお手伝い運動は平成19年度から実施しているが、今回新たな取り組みとして、参加型の取り組みであるポスターコンクールを実施したものである。小学校4年生から6年生を対象にしたところ、37点の出品があった。このうち資料に記載しているワクワクお手伝い賞と最優秀賞の3名は11月24日(日)にアオーレ長岡で表彰をする予定である。ワクワクお手伝い賞については、色使いが目を引き、余白の使い方やキャッチコピーも評価を得たものである。最優秀賞の作品の評価は資料に記載のとおりである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 「出品者全員を入選とする」とあるが、何点までが入選と決めていたのか。

(佐藤子ども家庭課長) 初めから、応募者全員に記念品だけでなく入選として賞状を渡す予定でいた。

(青柳委員) 募集をしたのはいつごろか。

(佐藤子ども家庭課長) 6月である。

(青柳委員) 夏休みの宿題に価する期間であるが、それにしても出品数が少ないのではないか。

(佐藤子ども家庭課長) 夏休みには小学生を対象としたコンクールが沢山あり、そういう中で伸び悩んだものと考えられる。これからもっとPRしていく予定である。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。

(大橋委員長) 次に、公立保育園の運営方法等に関する意見及び今後の方針について、事務局の説明を求める。

(栗林保育課長) 9月の定例会で、地域における保育サービスのあり方検討部会から、今後の長岡の保育の在り方等についての検討経過を報告した。その後、10月17日に部会の意見が取りまとめられ、清水部会長から「子育て関連新制度を踏まえた公立保育園の運営方法等に関する意見」が教育長に提出された。この意見を教

育委員会として今後の施策に反映させることとしたい。この意見は、長岡市の保育園の現状課題から長岡市全体における幼児期の教育、保育に係る現状課題を踏まえて、今後の長岡の子どもたちに質の高い保育を受けさせるにはどうしたらいいかということに関して様々な観点からの意見が記載されており、この意見を基に今後の施策方針をまとめた。まず1つ目は保育士の資質の向上である。教育に携わる保育士、教諭の資質向上が何よりも大切である。既に研修会等で取り組んでいるところもあり、さらに施策を充実していきたい。2つ目は幼稚園の認定子ども園への移行である。0・1歳児の受け入れが難しい状況であるのが現状だが、平成27年度からの新子育て制度の中で国が考えている認定こども園への移行も取り組んでいきたい。3つ目は公立保育園と私立保育園のより良い役割分担である。保育環境をより良いものにしていくために、公立の役割も残しながら民への移行も進めていきたい。その中でも少子化を見据え、中長期的な視点での適正配置を考えていきたい。4つ目は保育士の確保である。保育士確保が難しい現状のなかで、0・1歳児の受け入れが困難な状況がある。実際に保育士資格を持っていても、再就職として現場に復帰しづらいという状況を何とかしたい。対策として潜在保育士の再就職セミナー、専門学校との連携した就職ガイダンス、臨時職員の処遇改善等を挙げているが、現在既に潜在保育士の再就職セミナーについては行っており、できるところから取り組んで行きたい。5つ目は仕事と子育ての両立支援である。育児休業が取りにくい、子どもを預かってくれる保育園が見つからない等の課題を企業と連携し解決する。保育課だけの問題ではないので関係部局と連携しながら取り組んでいきたい。以上の5つの施策に取り組んでいく予定だが、特に3つ目の課題に関しては、保護者や市民の方の影響を考えると十分な説明、丁寧な対応をする必要があり、ゆっくりと着実に進めていかなくてはならない。今後は議員にも説明し、市政だよりも掲載する予定である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 雇用問題で、正規職員の応募はあるが臨時職員は少ないと聞いている。これは賃金の問題なのか。勤務時間帯は正規職員も臨時職員も同じなのか。パート職員であれば扶養に入るなどの理由で就業を希望している者も少なくないが、保育士もそうなのか。

(栗林保育課長) 希望する働き方と我々が求めている職員とのギャップは確かにある。働き手の要望も大切にしているが、現場が安全、安心な保育環境であることが第一優先である。このことから、パート職員を受け付けていない訳ではないが、まずは保育士資格があり、正規職員と同等の時間で働いてもらえる職員を確保したいと考えている。

(青柳委員) 臨時職員の中には資格を持たない者がいるのか。

(栗林保育課長) 臨時職員の中には保育士資格を持たない職員もいる。あくまで保育士補助という形で勤務している。また、パート職員の勤務時間は2時間から6時間まで様々な時間帯がある。できれば、7時間45分働ける方に入ってもらいたいが、扶養の問題やそれぞれ就労可能な時間帯の問題もあり、色々な働き方を取り入れている。

(矢沢子育て支援部長) 保育士の勤務時間は概ね8時間だが保育園は11時間開園している。年々、その開園時間いっぱいの長時間の保育を必要とする家庭が増えてきているため、保育士の数も以前より必要になってきている。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 数回に渡りこの部会が行われたようであるが、集約の仕方に非常に感心した。これから27年度に向けての新プランを立てる訳だが、是非これまでのことを活かして長岡らしいものを考えて欲しい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

(羽賀委員) 保育士の年収はどれくらいか。

(栗林保育課長) 正規職員は市の正規事務職員と同等の待遇である。期間雇用臨時職員は1月約16万円程度、年収では約200万円である。

(矢沢子育て支援部長) 実態としては正規職員の半額程度の賃金で同じような労働量である。

(大橋委員長) そして延長保育や早朝保育と長時間になれば、現実的には厳しい状況である。

(羽賀委員) 少子高齢化が顕在化してきて、色々な問題が起きてても教育委員会は前向きに進行型で検討していかなければならない。

(大橋委員長) それを含めて小中学校の連携だけでなく、幼保も連携した長岡独自

の理念を貫いていくためにも前向きにご検討願いたい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。

(大橋委員長) 次に、平成 25 年度 第 2 回長岡市熱中！感動！夢づくり教育推進
会議報告について、事務局の説明を求める。

(田中学校教育課長) 今回は前回の評価のまとめの継続と委員の方から自由に意見
を聞きながら今後の夢づくり教育のあり方について検討を深めるため開催したも
のである。まず、評価のまとめについてだが、意欲のある挑戦する子どもと停滞す
る子どもの二極化が進んだようにも見えるという意見があった。実際に学校現場で
は、子どもに挑戦させようという取り組みが増えてきているが、そうすると、やる
気のある子、挑戦しようと思意欲に燃えている子はどんどん高まり上を目指そうとす
る。一方で、下の子が落ちている訳ではないのだが、停滞していて結果としては差
がつき二極化しているようになるというものである。それから、学校・家庭・地域
の三者が連携してコミュニケーション能力を育む方策を考えていく必要があると
の意見ももらった。そして、今後のあり方についての意見では、課題克服型の事業
ではなく、夢や可能性を引き出す事に重点を置いた事業であって欲しいという意見
ももらった。また、身近な小学生のところに先輩が訪れる、そして小学生が夢を持
つようなそういった事業を進めて欲しいと言う意見を参考にしながら今後のあり
方について今後の会議でまとめていきたいと考えている。

(大橋委員長) この推進会議の議長でもある羽賀委員から補足等、発言があればお
願いしたい。

(羽賀委員) 出た意見がほとんど集約されているが、これをもっと前向きに捕らえ
ていきたい。その中で、定量評価だけで良いのかと言う課題が出た。先ほどのポニ
ーカーニバルのように、集客数だけ見ると下がったと短絡的に捕らえられがちだが、
事業の目的に合った人が多く来ているのかもしれない。そういったところの評価を
きちんとやっていかなければならない。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

(中村委員) 意欲のある挑戦する子どもと停滞する子どもの二極化が進んだとある

が、確かに子どもたちの様子を見ているとそれが現れてきている部分もあると思う。だが個人的な意見としては、一人ひとりスイッチの入るタイミングが違うので、今行っている経験は、現在のその子には向いていないかもしれないが、その経験によって将来的に芽を出すきっかけになるような活動をして欲しいと思う。「今こうだから」ではなく、長い目で見れば今やっている経験は無駄にはならない。その子のスイッチが入るときに開花するような活動をしていけたら良いと思う。

(大橋委員長) 意欲を高める、感動させる、熱中するとはそういう力をつけるものであって、自分に興味関心ややる気が出たらまっすぐに進むだろうし、そうでない子ども目を開かせて立ち上がったかもしれないし、これから立ち上がるかもしれない。

(中村委員) 今、種を蒔いている状態で、花開くのはいつか分からない。人によっては明日かも知れないけど10年後かもしれない。それでいいと思う。

(大橋委員長) 課題解決でなく、色々な事を取り組んで来ているという考え方は良いと思う。

(羽賀委員) 大きな流れとしては、力のある子が引っ張って行くという形になっている。ただ見た目には二極化して見える。しかし、隣の子が変わったことで気付くこともある。それを引っ張られるという意味の解釈もあると思う。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 評価のまとめだが、「熱中！感動！夢づくり教育」の3本柱をまとめた評価なのか。それぞれを個別に捉えた評価はしていないのか。

(田中学校教育課長) 内部ではそれぞれの柱ごとの評価もしているが、今回は全体の中で捉えていこうということで意見を伺ったものである。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。

(大橋委員長) 次に、平成25年度 県下生物・岩石標本展示会、自然科学写真展示会の開催について、事務局の説明を求める。

(山屋科学博物館長) 今年は中央公民館の4階大ホールで開催する。期間は10月28日(月)から11月10日(日)で最終日の11月10日の15時から表彰式を行う。期間中は児童・生徒が採集した植物や昆虫、貝類などその他動物、化石・岩石標本

を展示する。今回応募されたものの中には一時的なものではなく1年をとおしたものであったり、中には6年もかけて出品しているものもある。是非お越しいただきたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。

(大橋委員長) 次に、さいわいプラザへの教育委員会の移転について、事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 旧市役所がアオーレに移転した後、耐震、改装工事を進めているが、来春、そこに中央図書館を除く教育委員会の全課が移転することになる。その庁舎の名称は「さいわいプラザ」となる。1階入り口から入り、工業高校側が科学博物館展示室となる。2階は健康課関連の事務室等が入り、3階に中央公民館と科学博物館が入る。4階には教育委員会の事務局や教育長室が入る。5階は他の部局が入り、6階に子ども家庭センターや英語指導室が入ることになる。また、地下は科学博物館収蔵庫、別棟2階は中央公民館の陶芸工作室と健康センターの調理実習室が入る。移転のスケジュールだが、平成26年2月末に建物が竣工し、3月に幸町分室内各課が土日に分散し引越しをする。4月に科学博物館、中央公民館、健康センター、子ども家庭センターが移転する。来年3月の定例会はさいわいプラザで開催を予定している。科学博物館、中央公民館の移転終了に合わせた平成26年5月にオープニングイベントを開催する予定である。なお、科学博物館は移転に伴う準備のため、平成25年11月11日(月曜日)から平成26年5月初旬まで臨時休館とする。なお、その間も普及活動等は通常どおり実施する。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(中村委員) 2月末に竣工でその後、内覧会的なことは行うのか。

(若月教育総務課長) 引越し作業がまだなので、特に行わない予定と聞いている。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はあるか。

(金垣中央図書館長) 4つの事業について案内する。1つ目は「独立・開業でチャンスをつかめ! - ビジネスのヒントは図書館にあり -」である。この事業は県立図書館から企業・キャリア形成プログラムのモデル館として中央図書館が指定されたため、セミナーや約200冊のビジネス関連本を借りて貸し出すものである。2つ目は「読み聞かせボランティア養成講座実践編」で、子ども読書ボランティア養成事業に関するものである。11月から4回の講座を予定している。今までのボランティア講座に加えて、ボランティア団体自らが保育園や学校から依頼を受けて実際に読み聞かせに行けるような実践的な講座が目的である。3つ目は「ドキュメンタリー映画「疎開した40万冊の図書」の上映会」である。この映画は長岡市教育委員会が共催している。これはこの映画で主要な人物として取り上げられている反町茂雄さんが長岡出身の人物であり、戦後郷土資料の多大なる寄付や収集に協力してくれたことによるものである。映画のストーリーも本を大切にするというもので、10月27日から読書週間ということで連携してやっていきたい。高校まで長岡にいた阿刀田高氏さんの講演会も予定している。4つ目は文化講座「越後線と久須美父子」の案内である。今年は越後線全通100周年ということもあり、その敷設に関わった和島地域の実業家久須美父子の思いなどを中心に講演会を開催する。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。これをもって協議報告事項を終了する。

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に秋葉中学校、刈谷田中学校を訪問した。委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

(羽賀委員) 秋葉中学校はチャイムが鳴らないことに驚いた。それは自らが時間を律するということである。人間の土台を固める教育の中で、時、場、礼という、時間を守る、環境の整備をする、元気な挨拶を行うということを重要視していた。生徒から非常に元気な挨拶をいただいた。秋葉中学校は、同じ小学校から学年で1人、2人しかいない小規模の小学校から来る生徒がいるので心配して質問したところ、そういう生徒に対しては個別にサポートをしていると聞いた。もう1つのこの学校

の大きな特徴は小中連携である。積極的に進めている事業の1つに実感できる授業をやろうというものがあり、4つのキーワードがある。「わかる」、「できる」、「楽しい」、「面白そう」である。考える力を持って判断し、決断できる子どもになることを目指しているものである。バレー、バスケット共に都市大会で優勝、野球、サッカーは準優勝と、部活を通してその元気を全校へと広めていく努力をしていた。

(大橋委員長) 特色ある教育活動というと地域の独自性があるものと思ったが、秋葉中学校は学校生活に関わる基本的なことである元気な挨拶や活発な部活動、掃除の連携等であった。これが学校独自の特色ある教育活動の中に組み込んであり、職員と生徒が1つになって取り組んでいる。また、教職員の取り組みでは学力形成、社会性・道徳性育成、特別支援教育、養護教諭の4つの部会を年2回開いており、全教職員が集まっている。部会長はそれぞれの校長が務めているそうである。これは興味ある取り組みだと思った。もう1つ興味深いと思ったことは、今日の訪問で若手の先生方の授業を公開させるという校長先生の意向であった。若手の先生方が子どもと一体となって授業を行っているを実感した。特に合唱については近日、校内コンクールがあるそうで、熱の入れ方が素晴らしく感動的な授業であった。

(青柳委員) 刈谷田中学校は3つの小学校から集まって200人の生徒と20名の教師と伺った。クリーン作戦等を小中連携で行っていて、一校ずつでなく皆がまとまって行うのが良いと思う。一番感動したのは3年生の社会の授業であった。先生が困ったときに生徒が応援するなど良い雰囲気であった。先生の投げかけた問いに対してすぐに自分の意見を持って口にすることができる子が多く、皆が口々に意見を言い合い自由に物が言えるクラスだと感じて嬉しかった。校舎の造りが素敵だと思った。クラスの廊下と接する窓が家の屋根のような形になっていて家庭的な雰囲気である。一つひとつのクラスが家庭に帰るような造りになっているから良い雰囲気になっているのかもしれない。今までたくさんの学校に行ったが、廊下に飾ってある絵がとても上手で写真のようだった。また、栃尾に住んでいるので、栃尾の高校に進学すればいいという考えの子や家庭が多く、もっと刺激があると良いと感じる先生の意見もあったので、是非ハイスクールガイダンスへ来て欲しいとPRをした。

(中村委員) 刈谷田中学校の教員が、生徒のことを大変穏やかな子が多いと言っていた。だらしない服装の生徒はいなく、素直な子であると感じた。そんな中、先生

方も心配していたのは、栃尾という土地柄の中に住んでいて地元には高校もあるため、地域外の高校を目指す意欲が少なく、「勉強をしろ。」と言う親も少ないということであった。子どもたちは大変落ち着いて授業を受け、熱心にノートを取り、教室に飾ってあるメッセージ等の字はとても綺麗であった。また、刈谷田中学校、秋葉中学校、栃尾高校で3校合同の音楽会を行っていて珍しいと感心した。生徒会で啓発している早寝早起きやメディアコントロールをしようという活動も頑張っていると感じた。私も美術作品が素晴らしく目を見張るものが多く感心するばかりだった。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員